



一言で済む
感動が変な子
会場が素敵!
ミーナの
メン! aenが
新鮮な
思い出が...





街から色彩が
消えた'95の冬



ホリタの
おれ
多く訪ね
てくれた
下りた。





展覧会に
陰の日記
下の方へ
すいせんいりて
下の方へ
お々に



心か
感謝



運営スタッフからのエッセージ



この度は、10周年展おめでとうございます。

最初に森崎修太先生の絵と出会った時、あらゆる色彩が目の中に飛び込んできました。赤、黄色、ブルー、オレンジ、こんなに色彩を鮮やかに描く先生は私にとって初めてでした。また先生は独特なタッチで描き、なぜか心が和み落ち着いたものです。それは一つ一つを丁寧に描き、先生の気持ちが入っている為、作品から **気** が出ている事が感じとられるからです。今回10回目を迎えるということは本当に素晴らしい事でもありますし、また続けるということは、私達にとっても嬉しい限りです。先生が持っている人間性、思いやり、温かさなど一つ一つが作品から感じられ、見ている側をいつも感動させ、心落ち着かせてくれる事でしょうこれからも益々のご活躍を心よりお祈りいたしております。

神戸阪急 美術担当 窪真理子



テキパキと
仕事をこなして
ま〜す。



画廊を担当させて頂いております私は、神戸阪急オープンと同年に入社をし、今まで約11年間担当させて頂いてまいりました。週替わりで催事をさせて頂いており、作家さんの中では隔年開催される方はおられるのですが、毎年個展を開催して頂いているのは、森崎先生ただお一人です。私も、先生のファンの方と同じく、個展が近づいてまいりますと、「あ〜、夏がやってきたなあ。」という感覚になります。私の楽しみといえば、飾り付けです。先生の作品は、非常に透明感があり、独特の色彩感覚を持ち合わせていらっしゃいます。それぞれの作品を生き生きと見ていただくには、隣どうしになる作品に大きく左右される場合があります。先生・石崎さん・私、それぞれ意見交換し、思索します。先生は、悩んだりすると、いつもの癖で、上髭をなでながら黙り込んだり…。いざ会期が始まって、又その日の夕方には違うパターンの模様替えをし、日によっては4〜5回入れ替えることもあります。先生の作品は不思議にも、場所によっていろんな表情をみせてくれたり、何度も発見があります。

毎日同じお客様に来て頂いても新鮮に感じていただければと思っております。

神戸阪急・美術担当 吉村晃子(旧姓・大篠)

「二人の笑顔に支えられて！」

石崎たづ子

夏が来ると JR 神戸駅のホームにいる。噴出す汗をぬぐいながら、「今年も神戸！いい展覧会にしよう！」あーうんの呼吸が通じる修太先生と神戸阪急の吹き抜けのエスカレーターを登りつめるとどんな時も必ず二人の笑顔が待ってくれていた。もし「画廊スタッフコンテスト」があったとしたら二人は間違いなく全国一！だと思う。万全の気配りでハードな日程もニコニコなし1週間の催事を切り盛りしてくれる。土日の人出がピークの時はお昼も摂ってなかった？修太展が10年続けてこれたのも、二人を中心とした画廊スタッフの心意気と笑顔に支え



られたから。修太作品の色彩溢れる会場で、共有できた10年の時の流れは私にも宝物だと思える。心をこめてお世話になりました。

そしてありがとう・・・！

